



2017 J2 順位表 第28節

勝点、得点、失点、得失点差、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	湘南	59p	34	21	+13	A△
2	福岡	55p	38	21	+17	A●
3	名古屋	49p	54	44	+10	A△
4	徳島	47p	44	26	+18	A△
5	長崎	47p	34	30	+4	H△ A●
6	東京V	43p	40	32	+8	A●
7	水戸	43p	33	30	+3	H○
8	松本	42p	42	28	+14	H●
9	横浜FC	42p	38	29	+9	H● A●
10	千葉	42p	44	39	+5	H●
11	岡山	42p	32	31	+1	A△ H△
12	大分	41p	36	34	+2	H●
13	山形	41p	28	33	-5	H△
14	愛媛	39p	37	41	-4	A●
15	町田	38p	39	35	+4	A○ H●
16	京都	36p	36	35	+1	A△ H○
17	岐阜	31p	37	41	-4	---
18	金沢	29p	27	49	-22	H○
19	熊本	27p	28	41	-13	H● A△
20	讃岐	23p	31	44	-13	A○
21	山口	22p	30	42	-12	H△
22	群馬	14p	19	55	-36	A○ H○

次回HomeGame

第31節 vs. 愛媛FC

9/3 (日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホムラン TEL. 058-263-5201
名鉄岐阜駅前 (三菱東京UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

Living in Woods
本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院
岐阜市加納新本町1-23
tel: 058-273-8998

ALADDIN
何も無い店だけ...
心之花が咲く...
何も無い店だけ...
心癒される...
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

today's guest : **カマタマーレ讃岐**

2016 J2 10勝13分19敗 勝ち点43:19位

直近の対決と結果

2017/04/23
J2-09節@ピカスタ

讃岐 1-3 岐阜
古橋亨梧, 田中パウロ淳一, 山田晃平 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	カマタマーレ讃岐
2017/08/16 J2-28節@えがおS 熊本 0-0 岐阜	2017/08/16 J2-28節@ピカスタ 讃岐 1-0 横浜FC
2017/08/11 J2-27節@長良川 岐阜 1-1 岡山	2017/08/11 J2-27節@正田スタ 群馬 1-2 讃岐
2017/08/05 J2-26節@トラスタ 長崎 2-1 岐阜	2017/08/05 J2-26節@ピカスタ 讃岐 2-0 水戸

●2017年J2・真夏の3連戦。8/11(金)第27節・ホーム岡山戦は、試合開始直後に#9 クリスチャンが負傷退場してしまいチームのリズムが崩れると、セットプレーからのこぼれ球を決められて先制点を許す。しかし後半は岐阜が押し込んで、1-1の同点に。結局、逆転には至らなかったが、8位・岡山と勝ち点1を分け合った。続いて中4日で行われた8/16(水)第28節・アウェイ熊本戦は、岐阜に何度も決定機を作るが、決められない。後半になると連戦しかもアウェイ遠征の影響もあって逆に熊本に押される展開になるが、#25 GKビクトルのビッグセーブ連発で耐えきり、0-0で引き分け。この試合も、19位の熊本と勝ち点1を分け合う結果となった。

この2試合を経ても、FC岐阜の順位は17位と変化はないが、勝ち点2を積み上げたことで、直近上位・16位(京都)に勝ち点差を5に縮め、直近下位・18位(金沢)には勝ち点差を2に広げることができた。しかし、最下位・群馬とは勝ち点差17と差が広がっているものの、(ここしばらく下位同士の対戦が続いているため)21位(降格圏)・山口が勝ち点差9と迫っており、それほど安心できる状況ではない。なお、J2上位チームは抜け出てきた感が強いが、そして続くはプレーオフ争いをしている6位(東京V)から15位(町田)までの10チームが勝ち点差6以内にひしめく大混戦の状況は、それほど変わっていない。少しでも上位を目指すためには、やはり勝ち点3・勝利こそが必要だ。さて、真夏の3連戦・最後の対戦相手は、現在20位のカマタマーレ讃岐だ。シーズン前半を2勝・勝ち点13で折り返すという不本意な成績で苦しんでいたが、ここ3試合では水戸、群馬、横浜FCを破り、J昇格後で初となるリーグ戦3連勝を達成し、調子が上向きになっている。この試合を落とすと勝ち点差は8から5に縮まる、いわゆる“勝ち点6の価値のある試合”だ。讃岐のモチベーションも高いだろうが、こういう試合で下位の相手をしっかり叩くことが、岐阜にとっても非常に重要だ。讃岐との(Jリーグでの)通算対戦成績は、FC岐阜の4勝1分2敗・12得点10失点。ホーム戦でも2勝1分・5得点2失点と相性が良い。前回の対戦4/23(日)第9節・アウェイ戦では、#11 古橋亨梧、#7 田中パウロ淳一の得点で前半はリード、後半は讃岐#9我那覇和樹に1点を返されたものの、#22 山田晃平の3点目でダメ押し、3-1での勝利となった。その中でも#11 古橋亨梧は1ゴール2アシストの大活躍だった。今節もあの再現を果たして、しっかり勝ちきって欲しいところだ。

讃岐の最注意選手には、現在5得点の#11 馬場賢治を挙げたい。カウンター重視の讃岐では、重要な得点源となっている選手だ。4得点の#13 木島徹もあるいは#20 原一樹もカウンターで活躍する選手だが、木島は06年~07年にFC岐阜に所属していた選手だ。また、讃岐はセットプレーからの得点パターンも多いため、(06年~07年にFC岐阜に所属していた)#10 高木和正の左足にも注意したい。一方の岐阜だが、#16 福村貴幸が累積警告で出場停止。これまでフィールドプレーヤーで唯一、全試合フルタイムで出場していた左SBのポジションを誰が埋めるのか。大木監督の采配に注目したいし、起用された選手の活躍に期待したい。

全42試合の2017年J2シーズンも、3分の2を消化して残り3分の1、14試合だ。8/18(金)には2017年シーズンの第2ウインドー(登録期間)が終了して、今シーズンを最後まで戦い抜くメンバーの顔ぶれも確定し、いよいよシーズン終盤戦に入る。ここからは、毎試合ごとの結果が非常に重要な意味合いを帯びてくることを、僕らFC岐阜サポーターは身に沁みて、それこそ痛いほどよく分かっているはずだ。そんな中での真夏の3連戦・最終戦。選手たちの疲労も相当なものだろうが、そんな時だからこそ、僕らFC岐阜サポーターが選手の背中を後押ししよう。しかも今節からホーム2試合は「J2参入10周年記念」ユニフォームだ。記念すべき試合に記念すべき勝利を飾るため、最後までFC岐阜の勝利を信じ、選手たちを励まし、時には叱咤激励する、そういった僕らの拍手と声援を、最後までスタジアムに響かせよう。(ささたく)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。休:月曜日

投稿募集!!

gidaidohri@gmail.com

【第27節】岐阜 1-1 岡山

●午前中からひどく暑い岐阜市内。スタジアムに着いてしばらくしたら、急に気温が下がってきて……案の定、ゲリラ豪雨。試合開始前には上がったけれど、今節もまたグラウンド整備（芝生の水取り）、スタッフの皆さん大変お疲れ様です。さて試合は、徐々にチームに融け込み調子も上がってきた#9 クリスチャンが3試合連続ゴールを……って、わずか1プレーで負傷退場!? 再び暗雲立ちこめてきてしまったよ（溜息）。ん? ピッチの脇にあるのは……タオル? もしかして岡山の#19 片山瑛一がロングスローの時にボールを拭くためか? 片山のロングスローは、ホント岡山の武器だよなあ、誰も真似できてないよなあ……って、そのロングスローは絶対に注意しなくちゃいけないのに、失点……ボールを繋ぐサッカーをやってるためか、ついクリアすべきボールを中途半端に跳ね返す（そして失点する）ことがあるように思うのは、僕だけだろうか。そして、岡山のプレーが荒いのだと見ることも出来るけれど、パスを受ける時にチェックを受けてボールを失ったり、あるいは競り合いでボールを奪われるシーンが多いように感じて気になった。針の穴を通せるパス精度、あるいは足元に吸い付かせるようトラップ技術が選手たちにあれば良いけれど、そうでないのならば、もっとフィジカル面も重視しなくては……そんなことを思いながら、前半は終了した。ところが、だ。今シーズンも何度となく「前半と後半が違うサッカー」を見ているような気がするんだけど（苦笑）、今節もまた、そんなサッカーだった。一つには、岡山の足が早い時間帯で止まってきたからなんだろうけど、もう一つは……「えっ、#10 庄司悦大が前に出てきた! ?」（苦笑）。それまで、ほとんどアンカーの位置からボールの起点だった庄司が、もう一列前でゲームを作る、あるいはさらに前でゴールを狙う……うん、僕が古い人間だからかもしれないけれど、「背番号10」は、やっぱりこの位置が似合う。それに、庄司の才能も、やっぱりこの位置の方が輝くんじゃないか? そんなことを後半、僕は思っていた。何度か攻め、ゴールにあと少し……惜しいシーンが続く。そんな中、同点ゴールを決めたのは、やはり「背番号10」だった。見事なヘッドでボールをゴールネットに流し込み、僕らサポーターの前で『どうだ! 俺に攻撃させたら得点できるんだ!』とばかりに吼えてみせ、さらに僕らを煽る。その後も押せ押せな展開。後半は、ほぼ岐阜のペースだよなあ、なんで前半から……とっていて、逆に「前半からはできない（やらない）」のか? という仮説に思い当たった。そーいや2008年シーズンの岐阜は、ベテラン選手が多くって、そしてスタミナがもたなくて（苦笑）、「前半リトリート・後半勝負」って試合をしてたなあ。そこまでじゃないけれど、そういう90分間でFC岐阜のサッカーを見なくてはいけないのかもしれない、そんな事を感じていた。だけど試合後の大木監督のインタビューでは「なぜ前半からあのサッカーができないのか」と激おこだったから、大木監督の指示じゃないんですね（苦笑）。残念ながら、逆転&決勝点は見られず、1-1でのドロー。でも、「一列前の庄司」という、少なくとも僕にとっては、さらにワクワクできる形の片鱗が、見えた貴重な試合だったように思う。（ささたく）

●ボクは、今季のJ2が全体的にレベルが上がってるような気がしてた。そりゃ、半分以上がJ1経験があって、そのうえ何らかのタイトルを取ったことのあるクラブもいるワケだからね。現状維持では後退。そう思ってたんだけど、あながちそうとも言い切れなくなってきた。それが岡山戦の、岡山を見た率直な感想。ロングスローと縦ポン一辺倒な攻撃。ラフなプレースタイルだけは出身クラブっぽい雰囲気を出すFW。キックがかなり明後日の方向に飛んだGK。矢島やオッシー、あと岩政が抜けたらこんなサッカー?（いや、岩政は居ても居なくて

も一緒か）群馬も大概だったけど、この岡山が一桁順位だからね。試合後の順位を見るまでは、岡山はウチよりちょい上ぐらい、と思ってたよ。アレ? こんなんだったっけ? 今季の岡山……と思ってよく考えたら、アウェイの岡山戦は参戦どころか、リアルタイム観戦もしていなかった。付け加えると、町田も長崎も順位は上だけど、アナタたちのことはそれほどでも……、って感じでさ。なのに、そういう状況でうちが彼らより下の17位というのがさ……。ちょいとね。まあ、岡山戦の後半はワルくなかった。被シュートは1本? 2本? そんなイメージ。つくづく前半の失点。クリアが精一杯な状況がゴール前で3回も続いてはね。仕方ないかもしれないんだけど、納得したくない。そして、あの流れで敗戦となると重苦しい感じになったかもしれない。そこはキャプテンありがとう! だ。賢星も思いがけない交替出場だったハズだが、ポスト、チャンスメイク、そしてフィニッシュと多彩な働き。早いトコ一点取って欲しい、取らせてあげたい。あとは、悠斗。いよいよ、目覚めて来た感じ。楽しみだ。ところで、キャプテンの流れの中でのゴールは初めて、でよろしいですか? しかし、それでは物足りない。ゴールへの布石の一本はもちろん、アシストも自らのゴールも、どんどんピシバシ決めて欲しい。あれだけ、タクト振って、試合を回してんだから、試合も決めちゃえ! 同点弾だけじゃ物足りないよ? もう、試合を全部支配して、勝利も決めてくれて構いません。そんな、オレ様な展開待ってます！（ぐん）

●前半の25分くらいまでのサッカーが90分続いたら、おそらく3-0で負けてただろう。それくらい、序盤の岡山は0-5でぐっちゃんぐっちゃんにやられた昨年と同じくらいに「岐阜とは練習の質が違うのだよ」と超「上から目線」で言われているような内容だった。だから、早々に先制された時は「どうにもならんわ、こりゃ」とすら思った。

ところが、前半なかばくらいから岐阜のパスがつながり始め、相手ゴールに迫っていく。特に岐阜の左サイド、福村&古橋のコンビが完全に制圧してしまう。何が起きたんだ。後半になっても岐阜の攻勢は変わらず。岡山の選手だけ両足に1キロずつのアンクルウェイトを巻いているかのような動きの鈍さ。環境が影響したとしか考えられない。温度ではなく、湿度だ。よくマンガやアニメで、結界を張った中で登場人物が動きを封じ込められてしまうシーンがあるが、あれだ。とはいえ、その手のシーンは悪魔（魔女でもいい）が結界を張って主人公が苦しむという構図が多い。おいおい、岐阜が悪者で岡山が正義の味方かよ? 逆だろ? ……はい逆だと思います。ウチのFWクリスチャンは開始早々にリタイヤさせられちゃうし、岡山のFW豊川は相変わらずヤンチャだったし、どっちが悪者なんだか（苦笑）。

岡山のベンチワーク、大変だったと思うよ。バテた選手を替えるなら全員を替えないといけなくらいのパフォーマンス低下。交代は警告を受けた2人に、あとはバグと言っていくくらいにボロボロだった右サイドにパッチを当てるような。しかし、そんな岡山を相手に岐阜はなかなかゴールを割れない。おいおい、プレスをほとんどかけて来ない相手にパスサッカーでゴールを奪えないのなら、パスサッカーの意味ないぞ。すると、アウェイ福岡戦ではCBの後ろに位置して自身がオフサイドラインにまでなっていた庄司がするすると上がってほとんどトップ下に。ここ数試合、庄司のポジションが上がってきた（CBの前にいることが多い）のは気づいていたけど、まさかその位置とは? そしてコーヤ→賢星スルー→大本のクロス→ダイビングヘッドで決めたのは庄司。いやいや、庄司が相手ゴールエリアにまで入ってくるとは。しかし、この試合のキーパーソンはユートだ。試合を通して「あなたがここにいてほしい（wish you were here）」というところにいつも顔を出していたと思う。彼のこの献身的な動きが

あったからこそ、庄司が最前線にまで入っていった。試合中も「これはおそらく監督の指示じゃないな」と思っていたけれど、試合後のインタビューで大木監督が「なぜ早くからやらん」とご立腹だったんで、選手が自分達で考えてのフォーメーション・チェンジだった模様。でも、もし早くからやってたら岐阜も岡山と同じく自らのかけた結果の呪いにかかったと思う。やるのは後半途中からでよかったと思うけど、でも2点は欲しかったよなあ。クリスチャンが出ていたら2点は奪えた気がする。賢星は前半早々の投入でしかも本職じゃないトップで大変だったと思うけど、慣れないポジションで仕事をするのもまた経験。がんばってほしい。終了近くの同点ゴールに勝ったみたいな気分になっちゃったけど、勝ち点は1。それでも、これまでの「すべての攻撃は庄司から動き出す」サッカーから文字通りに『一皮剥けた』内容に、希望が少し膨らんだドロエだった。

(吉田鑄造)

【第28節】熊本0-0岐阜

●真夏の熱戦から中4日でのアウェイ平日ナイター。ポゼッションを重視して動き回り、かつメンバーが毎試合ほぼ固定されてる、今年のFC岐阜サッカーには、正直厳しい対戦環境。かつ、多くの会社は夏休みとはいえ、サポーターにとっても厳しい遠征環境(苦笑)。熊本は、スタグルも旨いし地元の名産も多い観光地も多いし、しかもJ2同期の震災復興のためにも、遠征したかったんだけどなあ…(溜息)。

さて、試合だけど……やはり選手たちの動きが鈍い。そしてそれは、やっぱり大木サッカーにとっては致命的な欠陥なのだと思感した。ボールを受ける選手が動いていないから、相手にパスを簡単に読まれたり、あるいはパスそのものの精度が悪くて、ボールを奪われる。ボールを受けた後で選手が動き出すから、その間に守備を固められて相手のゴール前を崩せない。そして、後ろでボールを回そうと思っても、動いていないから熊本の選手に簡単に詰められたり。守備面でも、相手のカウンターを遅らせるためのファーストチェックやサポートには、やはり選手が動くことが(他のチームのサッカーよりも)重要な大木サッカーで、よりカウンターを受けやすくなっていた。

それでも失点しなかったのは、(もちろん岐阜の選手の頑張りもあるけれど)熊本の選手たちの精度に助けられたかなあ……こちらも疲労からか、ボールの精度はよくなかった。けれど、カウンター中心のサッカーは前に走ればチャンスが生まれるので、その点でも熊本の方が有利だったかもしれない。岡山戦みたいに、「前半体力をセーブして、後半勝負」もできず、今季何度目かの「神様仏様ビクトル様」で、今季初のスコアレスドロエ。まあ、終わってしまった結果は仕方ない。でも今節は、負けられない一戦。しっかり体力を回復させて、勝ちましょう!

(ささたく)

●お盆の送り火の日、16日の水曜日。雨雲が通過した後の日中は痛いくらいの陽射しを避けての移動だったけど、試合開始前には涼しげな風が吹き抜け、えがおスタジアムが阿蘇の山の中だということに改めて気づいた試合。ウィークデーの開催とはいえ、前節が金曜日の長良川開催。ふだんよりは間隔も空いて、コンディショニング的には問題ないか?とってたんだけどね。

後半のシュートがゼロという公式データに驚きは無いが、前半のシュートが4本ということにビックリだった。試合後に仲間から「賢星のシュートが決まったらね。」と言われて、ようやく思い出すくらいにいたらく(ワタシが、ですよ?)。いつも通り、ボール支配率はウチが上回ったけど、ただそれだけ。ビクトル様々な展開は何回めかな?数少ない下位を相手にコレでいいのか?次節もまた、下位だけど3連勝と上向きな相手。それを迎え撃つのに福村が有給なのはキツイ……

とか心配なんだが、監督はまた「あんまり影響ないんじゃないかな?」と答えそう(苦笑)影響がないことを期待しています。いずれにせよ、降格枠は(おそらく)あと1つ。ブービー爆弾が回ってきそうな雰囲気から、一刻も早く脱却したい。そのためにも、週末讃岐戦にはさらにアツク支えていきたい。長良川で凱歌を揚げよう!

(ぐん)

【ユース】リーグ戦、再開!

●我々がFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)はG1リーグに参加しています。暫くの間は夏休みの中断期間に入っていました。いよいよ来週からリーグ戦が再開されます。現在FC岐阜ユースはリーグ4位ではありますが、首位の中京高校との勝点差はわずかに「3」!これからの頑張り次第でまだまだ優勝の望みは大いにあります。ここからの一戦ずつを大事に戦って行って欲しいです。

再開初戦となる第10節メジェールFC戦は8/26(土)、次の第11節の帝京小見B戦は9/2(土)に、両試合とも笠松町の岐阜フットボールセンターにて10時キックオフで予定されています。トップチームのホーム試合とは重なっていませんので、良ければ応援に行ってください。

頑張れよ、応援しているからな!FORZA!FC岐阜ユース!!

※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ず岐阜県サッカー協会やチームの公式サイトで確認して下さい。

(シュナ)

【岐阜選抜】成年、少年の結果

●当初は予定をしていなかったのですが、たまたま前日から静岡に居て(笑)、SNSで勝ち上がったのを知ったので、予定を変更して8月13日に2017年度国体(愛媛県)の東海ブロック大会成年男子の決勝戦「岐阜県選抜対三重県選抜」の試合を観戦に行ってきました。試合会場はエコパスタジアム。サッカー観戦で来るのは初めてでしたが、W杯スタジアムはやっぱりデカイですね。

時折どしゃ降りになるバッドコンディションの中で10時にキックオフ。岐阜県選抜はFC岐阜セカンド(東海1部)の選手のみで構成。一方の三重県選抜はヴィアティン三重(JFL)の選手中心でしたが、鈴鹿や伊勢志摩(ともに東海1部)からも選抜されている選抜チームでした。

試合は岐阜県選抜も集中力切らさずに良く守もれていたし、時折攻勢に出てシュートまで行きますが、ゴールポストに嫌われる惜しい場面もあって得点ならず。逆に三重県選抜には前半に1点取られ、後半岐阜県選抜が勝負に出て前がかりになった際に逆に得点されてしまい、そのままジ・エンド。0対2での敗戦となりました。残念無念。

あと、同時刻には同じ敷地内の補助競技場にて少年男子の第2代表決定戦が行われていました。対戦カードは「岐阜県選抜対愛知県選抜」。岐阜県選抜チームにはFC岐阜ユースからも4名の選手が選ばれていて、一方の愛知県選抜は名古屋ユースの選手のみで構成されていました。岐阜県選抜は前半0対1のビハインドで折り返しましたが、後半に同点、終了間際には逆転に成功して、そのまま試合終了!見事東海ブロックの第2代表になる事が出来ました!!少年男子の国体本大会への出場って何年ぶりだ?って位の快挙です!!!おめでとう!!!!

今年の10月に開催の「愛顔(えがお)つなぐえひめ国体」でも頑張ってきてください!

(ヤックル)

